

P U S H K I N

MASTERPIECES OF FRENCH LANDSCAPE PAINTINGS FROM THE PUSHKIN STATE MUSEUM OF FINE ARTS, MOSCOW

プーシキン美術館展 ― 旅するフランス風景画

2018. 4. 14 SAT - 7. 8 SUN



東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

東京
上野公園



クロード・モネ《草上の昼食》1866年 油彩・カンヴァス 130cm x 181cm

モネ 26 歳、印象派の序章

恋人のカミーユや友人の画家たちをモデルに描かれた楽しいピクニックの情景がみずみずしい色彩とタッチで表現された、青春時代のモネの傑作です。

1863年に発表されたエドゥアール・マネの《草上の昼食》に刺激を受け、モネは1865年春から翌年のサロンに出品するべく縦4メートル、横6メートルを超える大作《草上の昼食》に挑みますが、この野心的な大作はサロンに提出されることなく、後に切り分けられ、現在はそのうち2つの断片がフランスのオルセー美術館に所蔵されています。本作品はこの大作の下絵として描き始められながら、最終的にはより緻密に仕上げられ、完成作としてサインと年記が書き込まれたと考えられます。断片となったモネの構想を今に伝える貴重な作品です。

■ 会期：2018年4月14日(土)～7月8日(日) ■ 会場：東京都美術館 企画展示室(東京・上野公園)

■ 開室時間：9:30～17:30 ※金曜は20:00まで ※入室は閉室の30分前まで

■ 休室日：月曜(ただし、4月30日は開室)

■ 料金：一般1600(1400)円、大学・専門学校生1300(1100)円、高校生800(600)円、65歳以上1000(800)円 ※カッコ内は前売・団体料金。中学生以下無料

■ 主催：東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団)、朝日新聞社、テレビ朝日、BS朝日、プーシキン美術館、ロシア連邦文化省

■ 後援：外務省、ロシア連邦大使館、ロシア連邦交流庁(Rossotrudnichestvo)

■ 問い合わせ：03-5777-8600(ハローダイヤル) ■ 公式サイト：<http://pushkin2018.jp>

● 巡回情報：国立国際美術館(大阪・中之島)2018年7月21日(土)～10月14日(日)

珠玉のフランス絵画コレクションで巨匠たちの風景を巡る「旅」へ ——

モスクワのプーシキン美術館は、珠玉のフランス絵画コレクションで知られます。なかでも、19世紀後半から20世紀初頭にかけて収集された近代絵画は、世界的に見ても極めて質の高い名品が揃っています。これまで2005年（東京都美術館ほか）、2013年（横浜美術館ほか）に開催された「プーシキン美術館展」に続く本展では、17世紀から20世紀の風景画65点が来日します。

神話の物語や古代への憧憬、あるいは身近な自然や大都市パリの喧騒、果ては想像の世界に至るまで、描かれた時代と場所を軸にフランス近代風景画の流れをご紹介します。初来日となるモネの《草上の昼食》は、同時代の人物たちとみずみずしい自然の風景が見事に調和した、26歳となる若きモネの魅力溢れる作品です。ほかにもロラン、ブーシェ、コロー、ルノワール、セザンヌ、ゴーガン、ルソーらの作品が集います。新緑がまぶしい季節、巨匠たちが愛した光と色彩が躍る美しい風景を巡る「旅」をどうぞお楽しみください。



アンドレ・ドラン 《港に並ぶヨット》

1905年 油彩・カンヴァス 82cm x 101cm

マチスらの作品が「フォーヴ(野獣)」と批判された1905年のサロン・ドートンヌに展示された記念すべき作品。鮮やかな色彩とリズムカルで自由な筆致で、コリウールの港が描かれています。

アンリ・ルソー 《馬を襲うジャガー》

1910年 油彩・カンヴァス 90cm x 116cm

熱帯のジャングルが描かれた作品を多く残すルソーですが、実は一度もフランスを出たことがありませんでした。万国博覧会や植物園、図鑑や雑誌などの当時のパリに溢れる文化的刺激が、ルソーを想像力の旅へいざなったのです。



ポール・セザンヌ 《サント＝ヴィクトワール山、レ・ローヴからの眺め》

1905-06年 油彩・カンヴァス 60cm x 73cm

セザンヌが1902年に最後となるアトリエを構えたのは、サント＝ヴィクトワール山を臨むレ・ローヴの丘でした。本展には、本作の20年以上前に描かれた《サント＝ヴィクトワール山の平野、ヴァルクロからの眺め》も出品されます。

